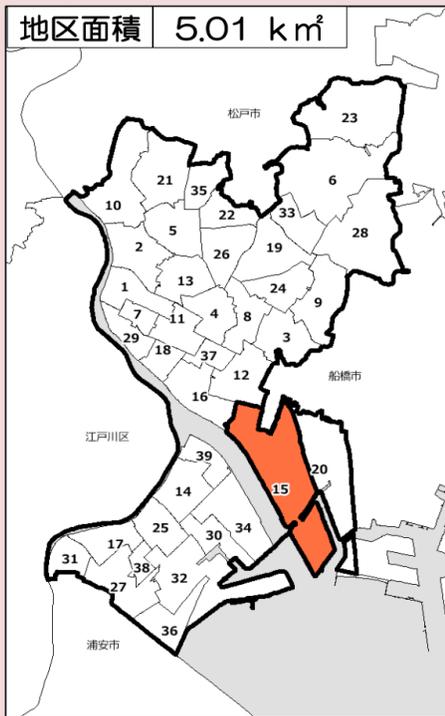


# 15 信篤小学校区

## (1) 位置



## (2) 地区概況

### ◆位置

信篤小学校区は市の南東部に位置し、地区の東側は真間川、南側は東京湾、西側は江戸川に面しています。また、地区の南西側に高谷川が縦断しています。

### ◆地形・土地利用

地形は、北側は氾濫平野、南側は埋立地・盛土地で構成され、平坦な低地となっています。地区の北側は第一種中高層住居専用地域等の住宅地となっており、マンション等が多く建ち並び、工業地域等でもあることから工場も立地し、住工混在地域となっています。また、南側は工業専用地域等の工業地帯となっており、多くの工場が立地するほか、交通の便が良い立地を活かした物流拠点となっています。

### ◆都市基盤

地区内の西側の一部は、土地区画整理事業により整備されています。南側には東西にかけて湾岸道路及び東関東自動車道が通り、南北にかけて外環道路が通り、クリーンセンターも立地しています。また、地区北側に東京メトロ東西線が通り、地区外の北側に原木中山駅が近接しています。また、京成バスが通っています。

## (3) 人口・建物概況

### ◆人口

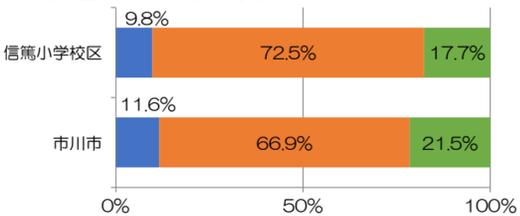
#### 年齢別割合

	信篤小学校区	市川市	割合※
人口総数	20,337人	492,564人	4.1%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,630人

平均値：39地区の平均値を示しています。



■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65歳以上

地区の人口は、全地区の平均人口より多いです。市全体と比較すると15~64歳の割合が高く、現役世代が多い地区となっています。

### ◆建物

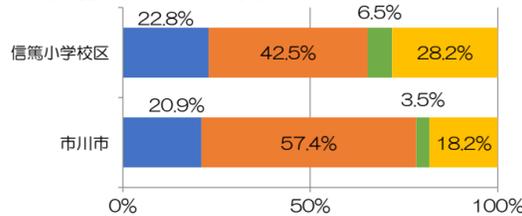
#### 構造別割合

	信篤小学校区	市川市	割合※
建物総数	3,319棟	107,267棟	3.1%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,750棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



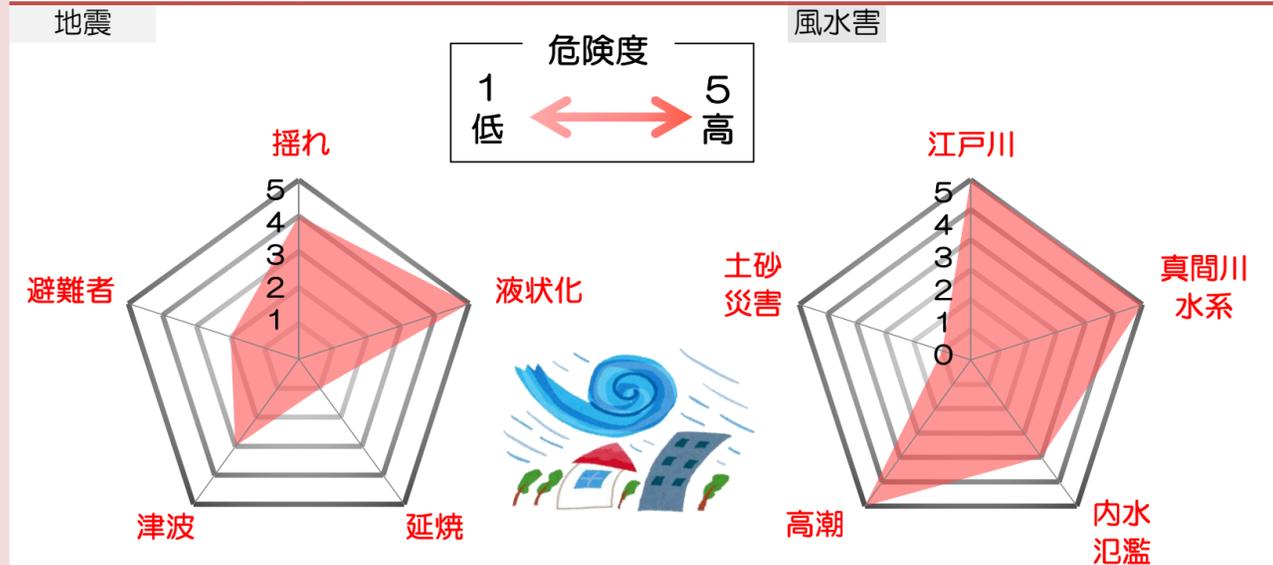
■ 昭和55年以前(木造) ■ 昭和56年以降(木造)  
■ 昭和55年以前(非木造) ■ 昭和56年以降(非木造)

地区の建物は平均よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が低いです。また、非木造建物が多い地区となっています。

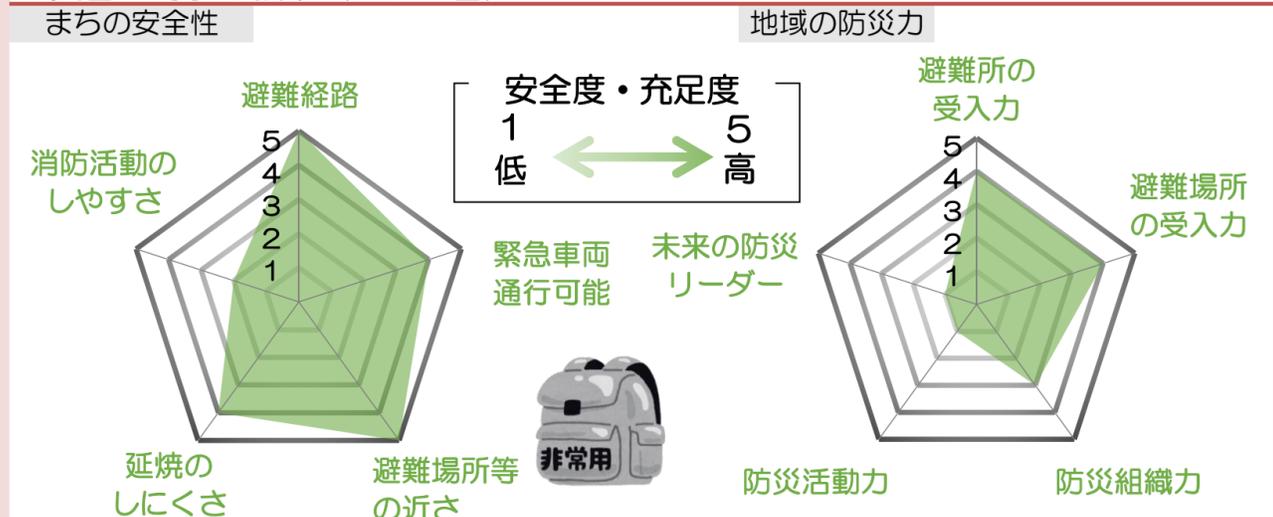
## (4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

### ◆災害に対する弱み（マイナス面）



### ◆災害に対する強み（プラス面）



### ◆評価

信篤小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、揺れ、液状化、東京湾に面していることから津波の危険性が高い傾向にあります。風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高く、真間川水系の氾濫、東京湾に面していることから高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難経路や緊急車両通行可能道路の充足度、避難場所等の近さ、延焼のしにくさは高い傾向にあるものの、消防活動のしやすさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所の受入力、避難場所の受入力は高い傾向にあるものの、防災活動力、未来の防災リーダーは低い傾向にあります。

## (5) 防災関連施設

### ◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
信篤小学校	-	タムスさくらの杜市川	○
高谷中学校	-		
信篤公民館	-		
信篤市民体育館	-		
県立市川南高校	-		
クリーンセンター（管理棟）	-		
田尻老人いこいの家	○		
ホワイト市川（本館）	○		

### ◆避難場所

名称
信篤小学校
高谷中学校
信篤公民館
信篤市民体育館
県立市川南高校
原木山妙行寺

### ◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	信篤こども館		医療救護所	なし
	田尻こども館		関連施設	原木交番



## (6) 被害想定結果（地震・風水害）

### ◆地震災害（被害を受ける割合）

想定項目	信篤小学校区	市川市全体	
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	5.1%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	13.7%	11.8%
	焼失棟数の割合	2.1%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	1.3%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.2%	0.4%
	避難者の割合	16.0%	20.0%



### ◆風水害（被害を受ける割合）

想定項目	信篤小学校区	市川市全体	
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	92.2%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	92.4%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	62.1%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	99.9%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物が少ないものの、非木造建物が多く、震度6弱の地域もあることから、焼失被害は少ない傾向となっています。人的被害については、市全体より死者は少なく、負傷者や避難者はやや少なくなっています。

一方で、風水害については、東京湾に面していることから、高潮の浸水による影響が大きく、江戸川の氾濫、真間川水系の氾濫、内水氾濫による浸水の影響も受け、市全体と比較して浸水棟数は多くなっています。

## (7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区内で広く、震度6強の揺れが予測され、液状化による危険性が高いことから、耐震対策やライフライン途絶に備えた家庭での備蓄対策が重要です。また、工業地域においては、津波による浸水の危険性も高いことから、円滑な避難に備えることが重要です。
風水害	南側は東京湾、西側に江戸川に面していることから、高潮や河川氾濫による浸水被害の恐れがあり、内水氾濫による浸水の恐れもあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区には、消防水利の充足が低く、消火までに時間を要することが考えられるため、初期消火の対策等が重要です。
地域の防災力	地区には、防災活動力が低いことから、災害発生時に即座に対応できるよう、初期対応や応急復旧活動に対する対策を行うことが重要です。また、未来の防災リーダーとなる人材育成を進めていくことが重要です。

## (8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	消防活動のしやすさが低いことから、地域内で家庭用消火器の設置に関する呼びかけや地域ぐるみで市が開催する防災訓練への積極的な参加を行っていくことが重要です。市が開催する防災セミナーやイベント等に参加する等、地域ぐるみで防災リーダー等を育成していくことが必要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策を進めるとともに、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが必要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

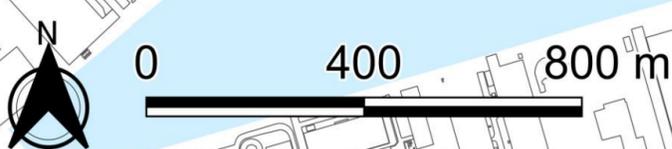
# (9) 防災マップ



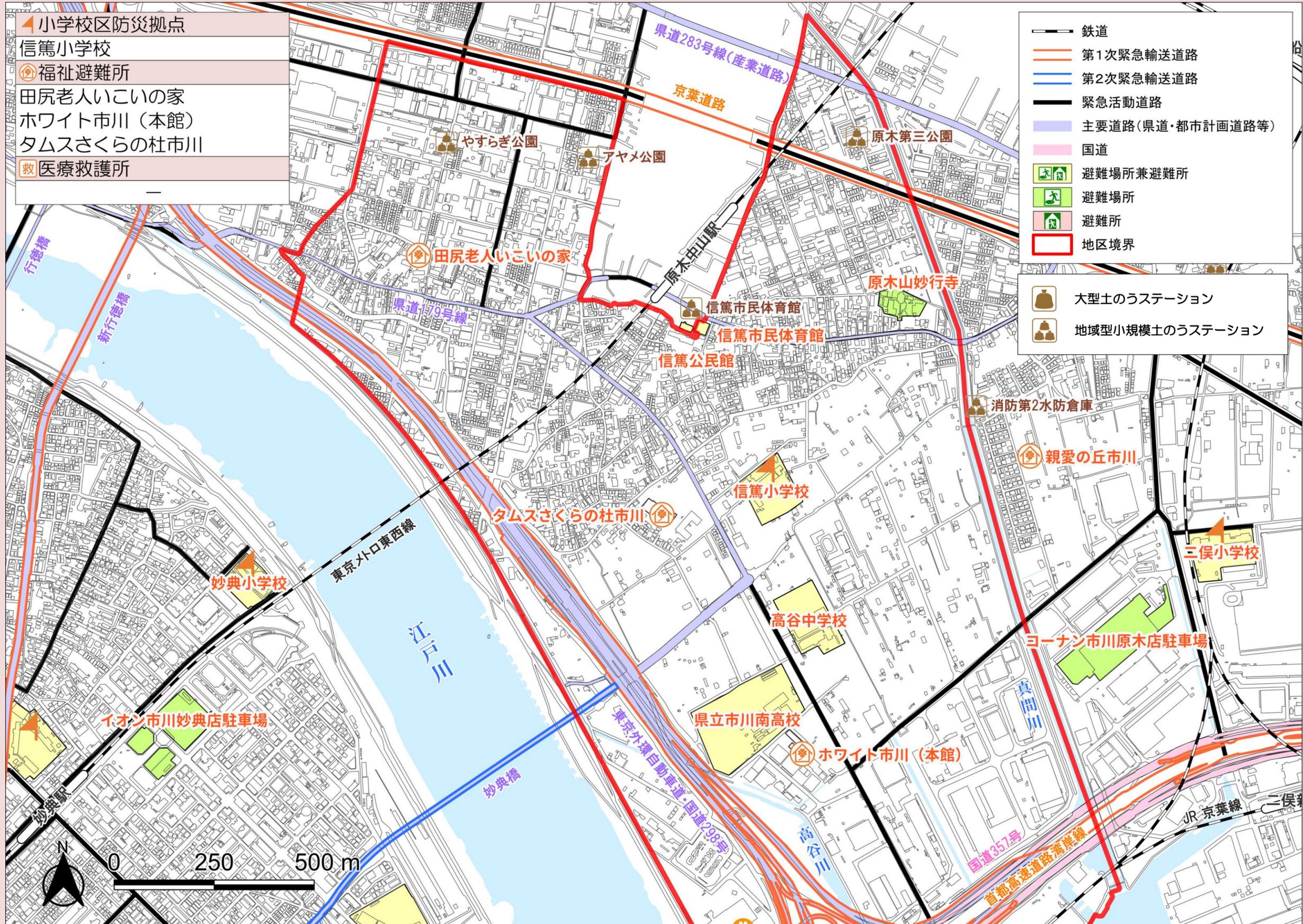
- 鉄道
- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 緊急活動道路
- 主要道路(県道・都市計画道路等)
- 国道
- 避難場所兼避難所
- 避難場所
- 避難所
- 地区境界

- 大型土のうステーション
- 地域型小規模土のうステーション

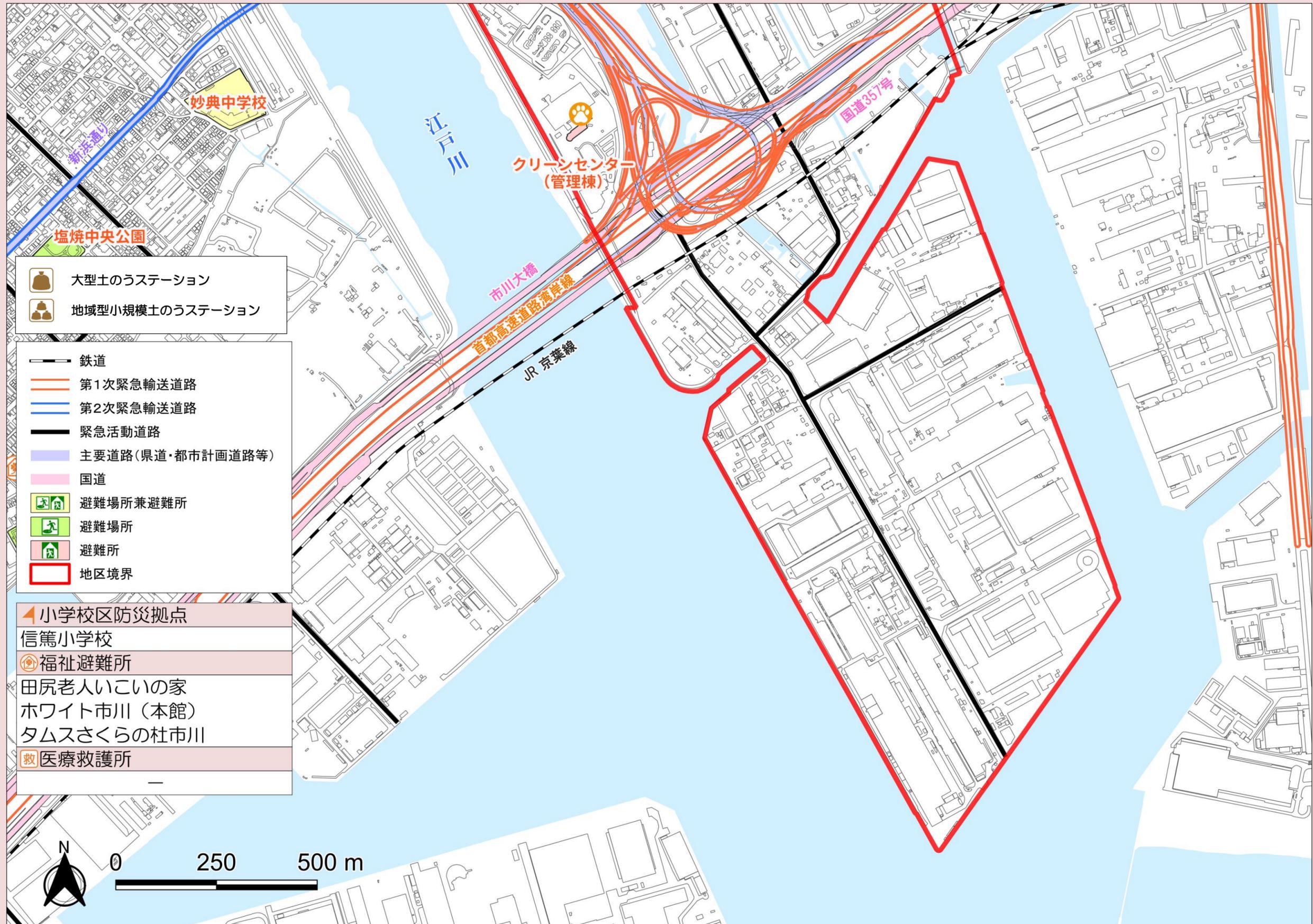
- 小学校区防災拠点
- 信篤小学校
- 福祉避難所
- 田尻老人いこいの家
- ホワイト市川(本館)
- タムスさくらの杜市川
- ペット同伴避難所
- クリーンセンター(管理棟)
- 救医療救護所
- 



# (9) 防災マップ①

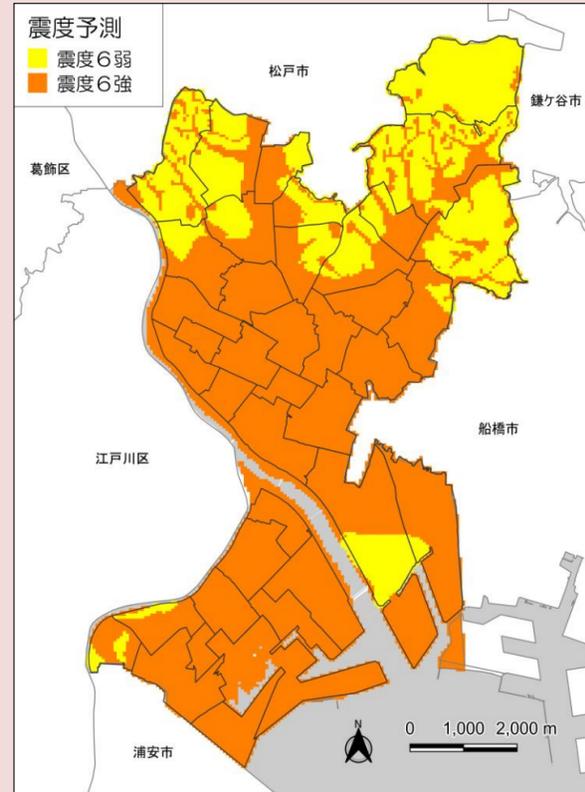


# (9) 防災マップ②



# (10) 基礎資料

## ①市全域の震度分布図



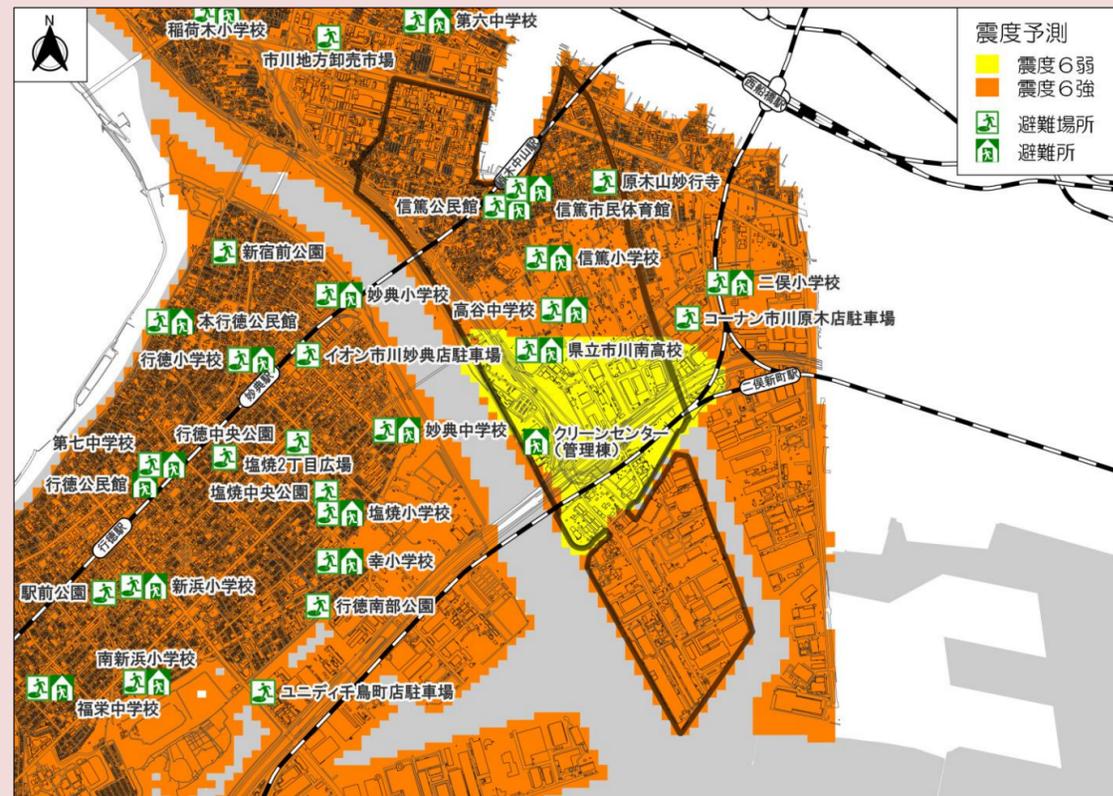
本カルテには、東京湾直下を震源域とする地震が発生した場合の結果です。  
震度分布図を見ると、市の南部を中心に広く震度6強と予測されています。

想定地震	東京湾直下地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：48km程度)

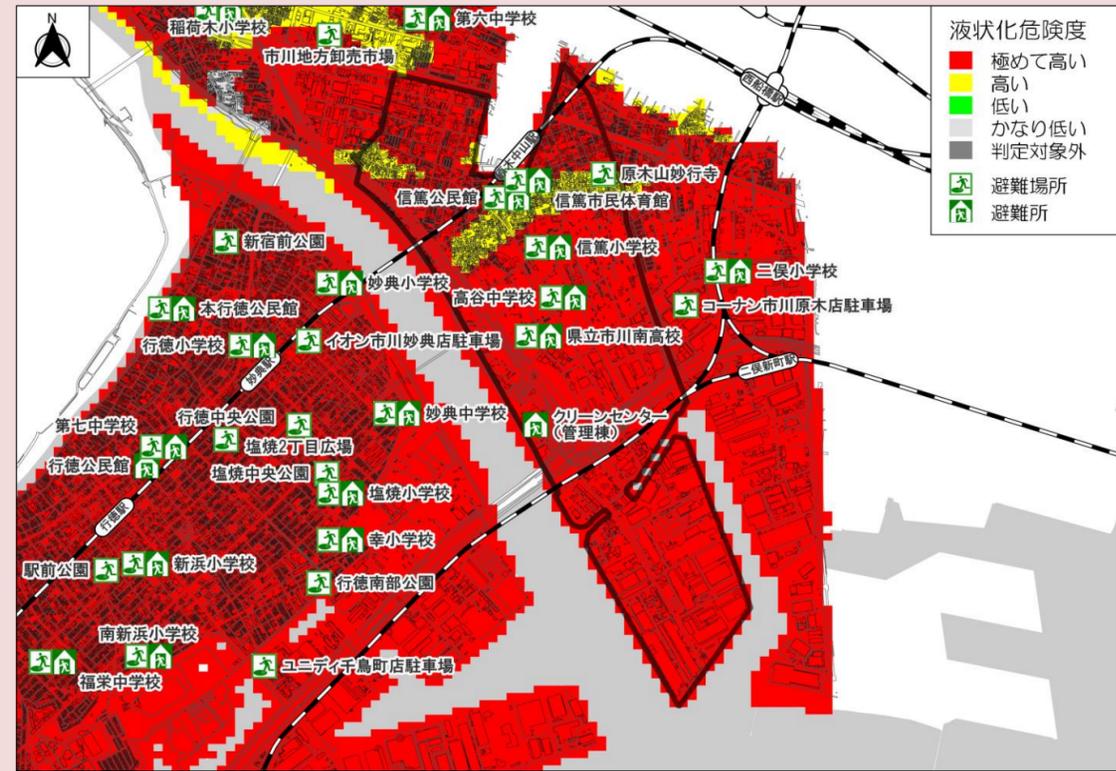


※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。

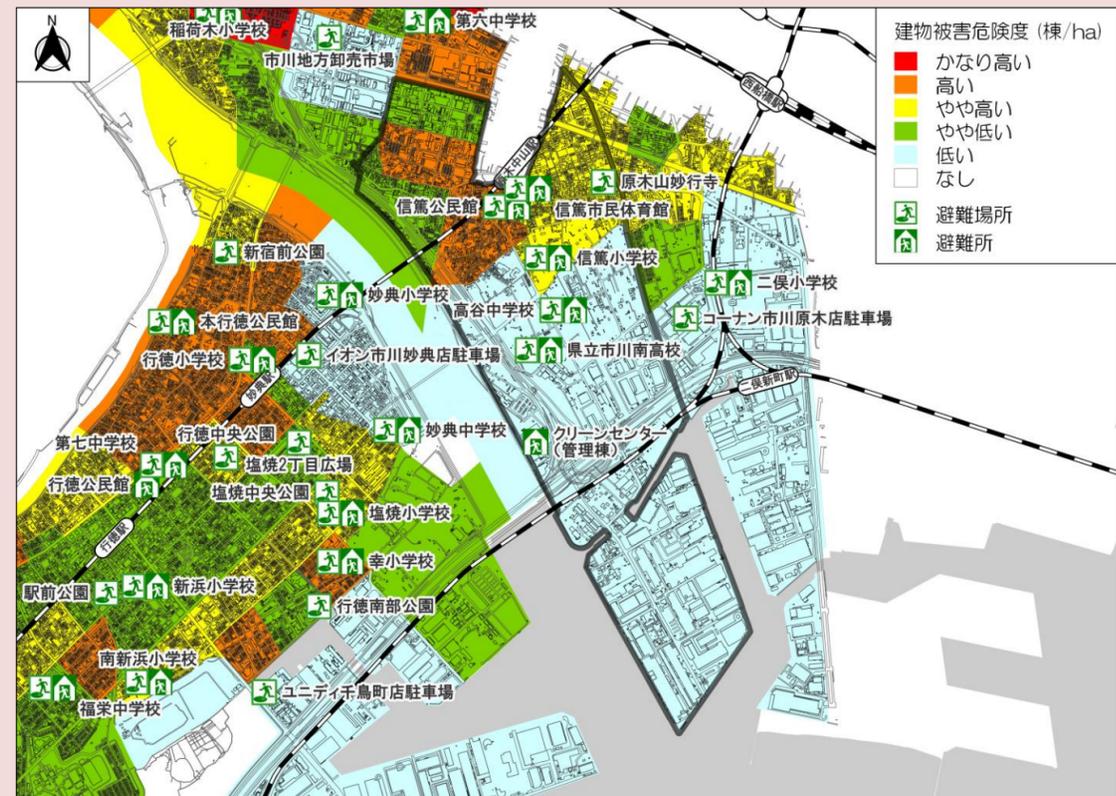
## ②震度分布図



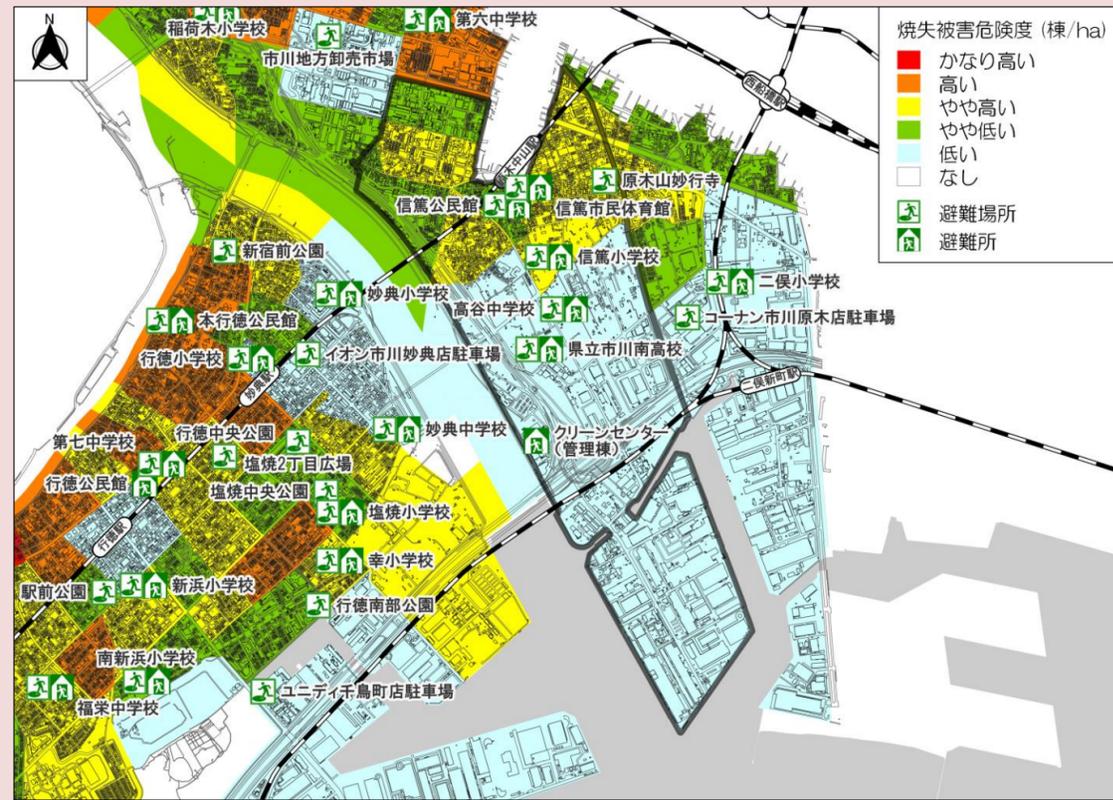
## ③液状化危険度



## ④建物被害（揺れ・液状化による被害）



### ⑤建物被害（延焼による被害）



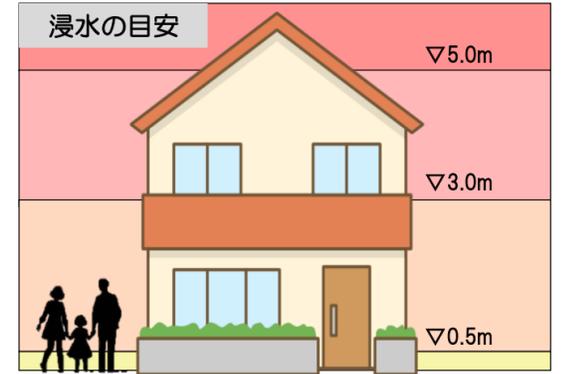
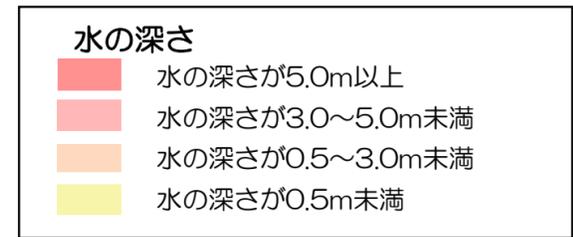
### ⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

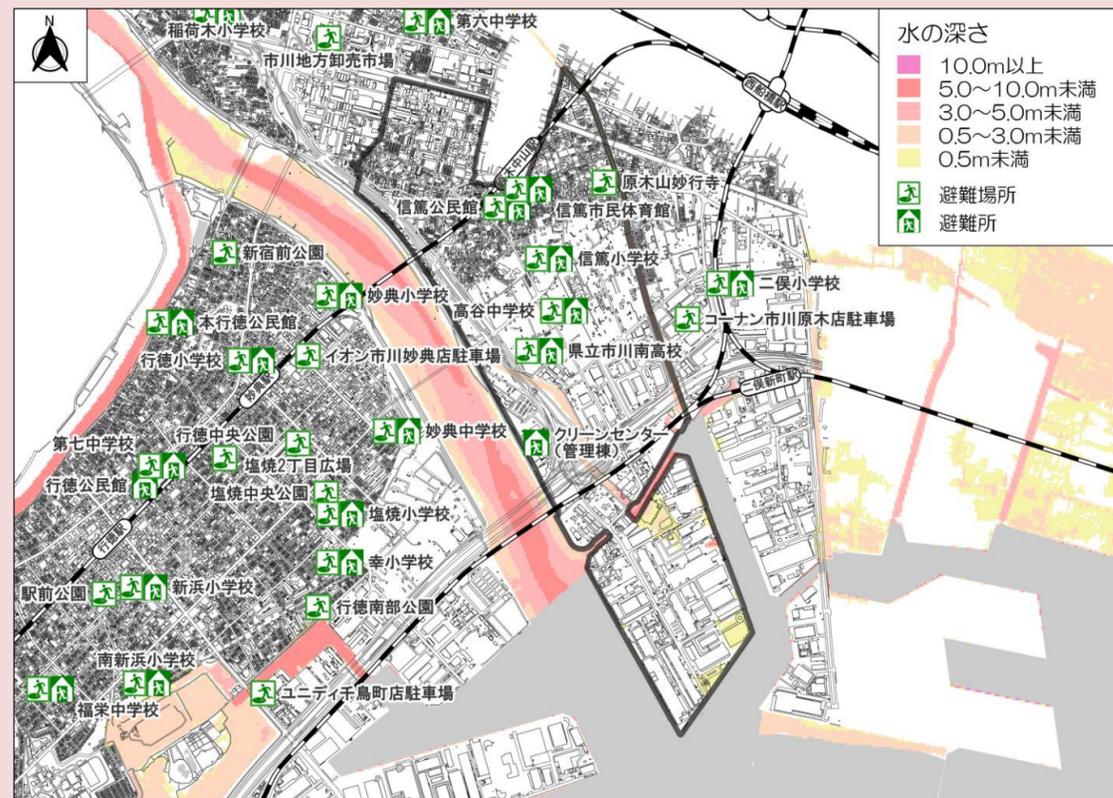
また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

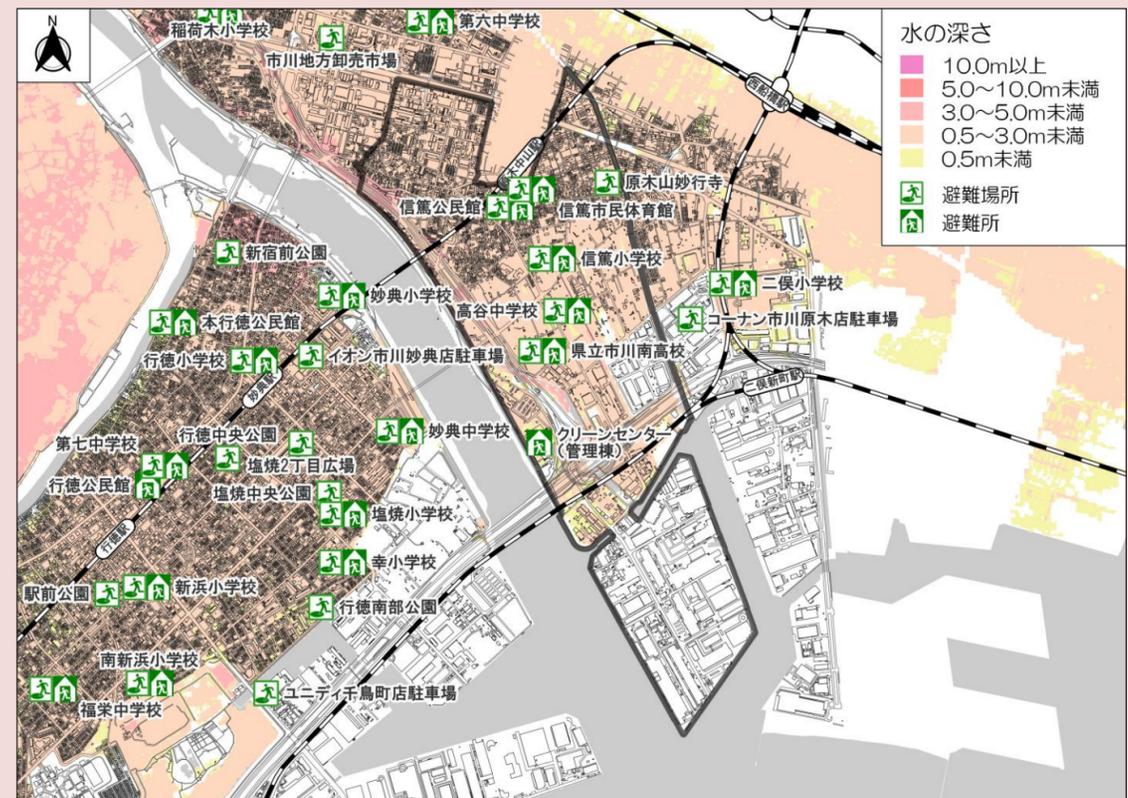
### ⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

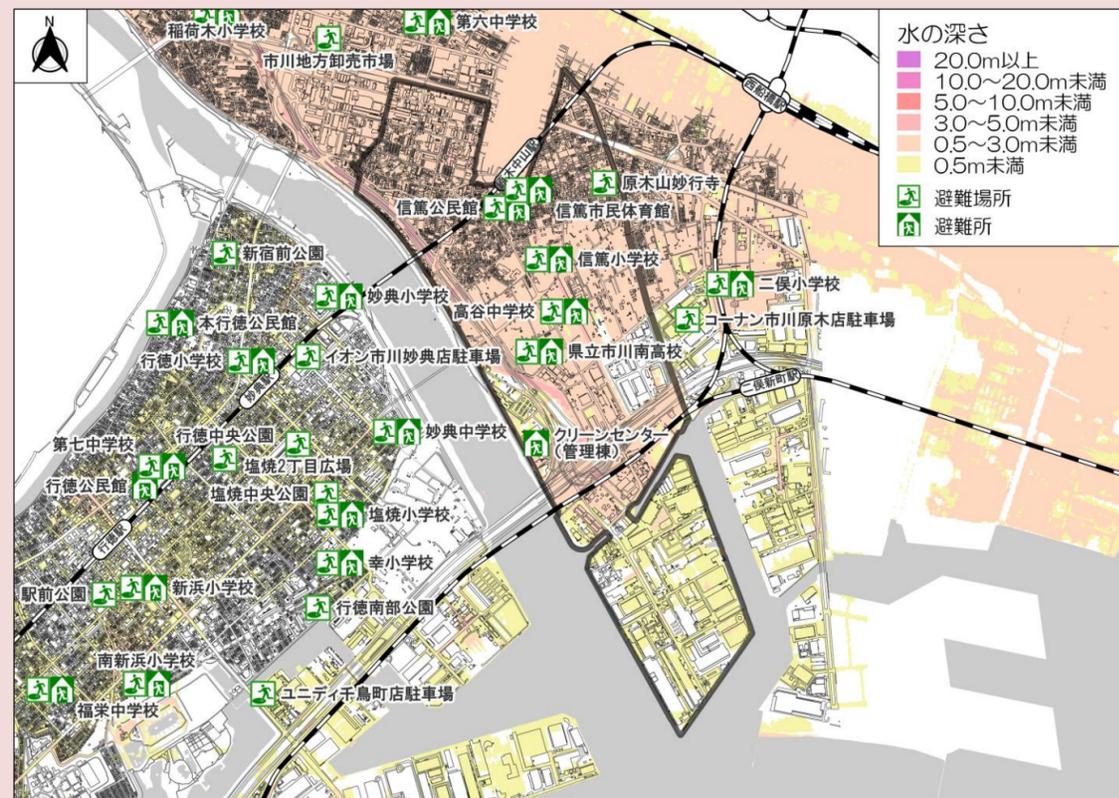
平成24年4月：千葉県

### ⑧洪水（江戸川）



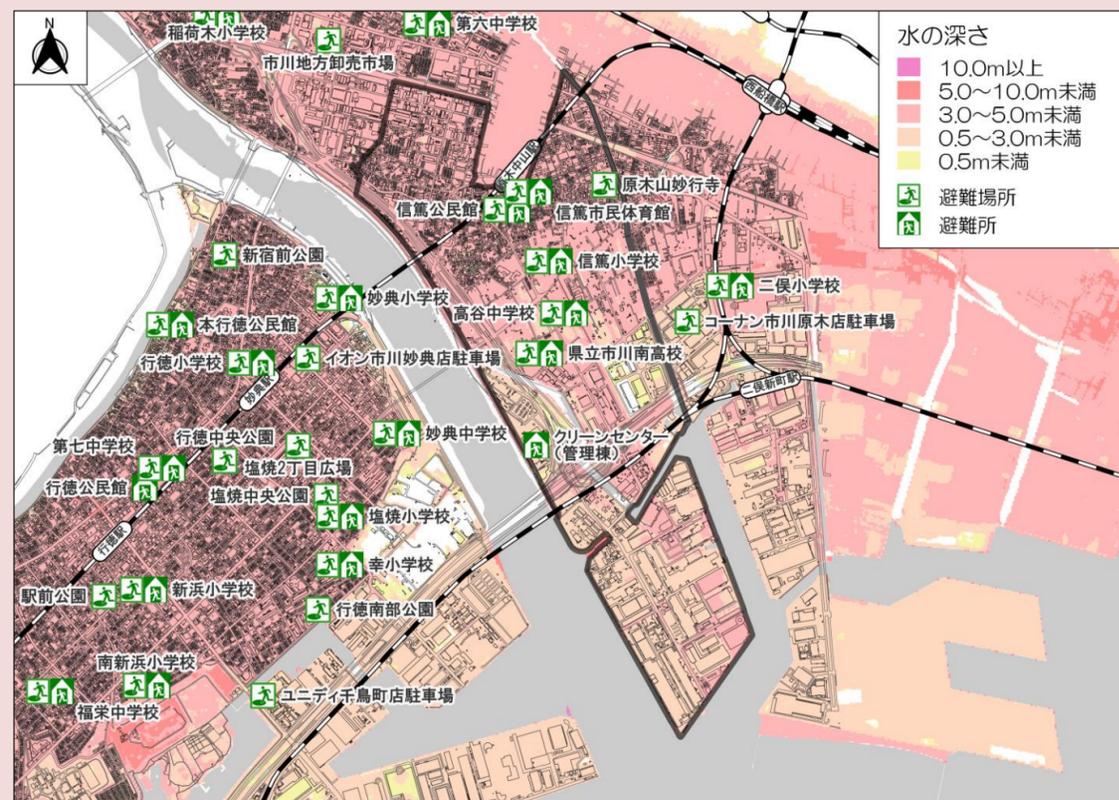
平成29年7月：国土交通省

### ⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

### ⑩高潮



平成30年11月：千葉県

### ◆メモ

